

## 参考資料：立論グランプリ 評価の指針について

### 「分析」

この項目では、ディベーターが議論全体の流れを適切に理解・分析できていたかどうかを判断します。自分の議論と論題との関係、自分の議論同士で矛盾が無いか、といったことを理解し、一貫した議論の展開が出来ているか、といったマクロな観点から、評価します。

### 「理由付け」

この項目では、「分析」項目に比べて、よりミクロなレベルでの、個々の議論に対する説明、説得力のある理由付けが出来ているかどうかを判断します。

主張に対する根拠の適切さ、その根拠を客観的に説得力をもつような形で示すことが出来ていたか、また、理解しづらそうな議論を例示や言い換え等で分かりやすく説明できているか、といった観点から、評価します。

### 「証拠資料」

この項目では、裏付けとなる証拠資料を収集・整理し、議論の中で適切に活用できているかどうかを判断します。

自分の議論の主張に説得力を与えるために必要十分な証拠資料を用いていたか、といった観点から評価します。

本項目については、文献の完全な引用の形を取っていないものであっても、客観的データといえるもの（統計データや、一般常識から容易に導出できる結論等）であれば、評価の対象とします。

### 「構成」

この項目では、個々の議論の順序だてや配置が効果的に行われていたか、議論頃に見出し付けや番号付けが適切に行われ、議論の構成が分かりやすくなるような工夫がされていたか、といった観点から、評価します。

### 「表現」(※決勝審査のみの評価項目)

この項目では、自分が伝えたい議論を効果的に伝達できているかどうかを判断します。

日本語の文法や使用している語彙が適切なものかどうか、発音、イントネーションがわかりやすいか、スピードや間のおき方は適切か、といった観点から、評価します。